



公益社団法人国際日本語普及協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-25-2 虎ノ門 ESビル2階
TEL (03)3459-9620 FAX (03)3459-9660

ASSOCIATION FOR JAPANESE-LANGUAGE TEACHING
2F Toranomon ES Bldg.
3-25-2 Toranomon, Minato-ku, Tokyo 105-0001, JAPAN
<http://www.ajalt.org>

平成29年度文化庁地域日本語教育実践プログラム（A）

難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援
および難民への日本語教育への理解促進事業

第1回運営委員会

1. 開催日時：平成29年5月1日（月）18：30-21：00
2. 開催場所：公益社団法人 国際日本語普及協会（AJALT）
3. 出席者：伊藤寛了 公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部 企画調整課 企画第一係長
（敬称略）石上和敬 浄土真宗本願寺派梅上山光明寺 住職、武蔵野大学 教養教育部 教授
岩瀬香奈子 株式会社アルーシャ 代表取締役
小門 謙 一般財団法人 港区国際交流協会 事務局長・常務理事
清野成美 港区 国際化・文化芸術担当課長
関口明子 公益社団法人 国際日本語普及協会 理事長
戸田佐和 同 専務理事（陪席）
小瀧雅子 同 常務理事
小形真佐子 同 研修事業部 担当部長
樋口 博 同 日本語授業部 担当部長

ご欠席：高木隆子 港区 産業・地域振興支援部 地域振興課 国際化推進係係長

4. 討議事項

1) 主催者挨拶

昨年度プログラムへのご協力のお礼とともに、引き続き今年度実践プログラム（A）にご協力
いただけることに心より感謝申し上げます。長年 AJALT が取り組んできた難民への日本語教
育の実績を生かし、今年度も難民及びその家族への日本語支援を中心に行う予定である。
AJALT は今年2月に設立40年を迎えた。6月に池上彰氏を迎えて記念公開講座を開催し、
これからの日本語、日本語教育、支援の在り方について考えていく。来年1月には記念行事を
行う予定で、ぜひご案内させていただきたい。皆さまとの連携を深め、今年度も地域の学習者
及び支援者に役立つ事業を行っていくよう、努めて参りたい。

2) 本年度事業について

●実施計画の説明

今年度で日本語教室は5年目にはいった。

- ・取組1「難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする
日本語支援事業」（全40回 計80時間）
平成29年5月11日～平成30年3月1日（除：12/28、1/4）
毎週木曜日 18：30～20：30
於：浄土真宗本願寺派梅上山光明寺

戸外学習

- ・取組2「難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者に対する日本語教育への理解を促進するための支援者研修」 (全10回 計30時間)
平成29年12月7日～平成30年2月22日(除: 12/28、1/4)
毎週木曜日 17:30～20:30
於: 公益社団法人 国際日本語普及協会
- ・取組3「日本語学習用教材作成事業」(取組1使用教材、40回分)
昨年はこの教材提出の取り組みは行わなかったが、教材作成は常に行っている。今年度は、一昨年までの取り組みと同様に、提出教材として作成する。
以上の3本柱で事業を行う計画である。

●事業の目的

難民問題が世界で注目されている中、日本でも多文化共生社会における日本語とその支援の在り方は今後の大きな課題である。AJALTはインドシナ難民受け入れから37年間に渡って難民への日本語教育を行ってきた。その知見を活かし、今年度も難民申請中の方にも裾野を広げて、「生活者のための」日本語支援を実践し、学習者の日本語力の向上と社会参加の促進に努める。支援者研修を通じて、難民への日本語教育への理解を促進し、広めていく

●支援体制

昨年度は2クラスに講師4人体制だったが、本年度は同じ予算で講師3人体制とし、副担当の一名は、クラスの人数などの状況により、臨機応変にサポートに入るようにする。残りの予算は、著作権をクリアした素材を使った教材作成に充てる。

3) 参加者募集について

現時点で、昨年度の学習者4名(ミャンマー2名、ベトナム2名、中国1名)、新規学習者4名(ミャンマー1名、コンゴ2名、中国1名)の計8名の学習者が集まっている。新規学習者の内3名は昨年度RHQ夜クラスの卒業生である。更にチラシを配布して広報に努めたい。ミャンマー関係への広報は、高田馬場付近のレストラン、病院、また支援団体に配っているが、一番は口コミである。難民支援団体にはまだ直接連絡していないが、協力してもらえるか検討も考えられる。

4) 質疑応答及び意見交換

1. 最近の学習者の傾向

最近の傾向としてどこの教室でもアフリカ系が増えているようだ。

2. 本事業の教材のレベルについて

初中級者を対象としたレベルで、日本での生活に広く役立ち、且つ考える力を促す教材を考

えている。主にニュースや伝統行事、地理や歴史、文化習慣などを題材に扱う予定である。

3. 学習者のレベルに合った教材、支援の方法について

- ・滞在3年～5年になる人が、生活保護から脱却できるような教材はないか。

←履歴書の書き方、面接対策など就労支援に役立つ教材を紹介したい。

CD-ROM教材「仕事を探そうー履歴書の書き方から面接まで」(現在は品切れだが、増版予定)。

- ・ローマ字が読めない人や、カタカナが苦手な人、文字が書けない学習者にどうすればよいか。

←文字支援の方法として、学習者に必要な身近な語彙を、五十音表でタッピングしながら、音と文字を結び付ける方法を紹介したい。学習者にとって区別が難しい長音など特殊音も、この方法によって音と文字を示すことができる。母音と子音のシステムを理解させながら、継続的に行うことで、文字とともに語彙を増やしていくことができる。

←日本に滞在経験がある人は、耳から自然に生活の言葉が入っており、コミュニケーションの土台がある。それらの分かっている部分を活用して文字化を試みると、発見の喜びが大きく、上達も早い。

4. 支援者研修終了後の動向について

もともと支援の場がある人は継続している。また、終了後にそのグループに加わった人もいる。

5) 近況報告

年度の初めであったので、各ご出席の方に近況報告をいただいた。

6) 次回運営委員会について

運営委員会は事業の内容を検証し、進め方を検討するうえでも、内部と外部と協力して行うことが重要と考えている。今年度も3回ほど開催したい。

次回は、支援者研修が始まるころ(10月ごろ)に実施して、広報へのご協力をお願いしたい。

以上

平成29年度文化庁地域日本語教育実践プログラム（A）

難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援
および難民への日本語教育への理解促進事業

第2回運営委員会

1. 開催日時：平成29年11月15日（水）18：30-21：00
2. 開催場所：公益社団法人 国際日本語普及協会（AJALT）
3. 出席者：石上和敬 浄土真宗本願寺派梅上山光明寺 住職、武蔵野大学 教養教育部 教授
（敬称略）岩瀬香奈子 株式会社アルーシャ 代表取締役

小門 謙 一般財団法人 港区国際交流協会 事務局長・常務理事
高木隆子 港区 産業・地域振興支援部 地域振興課 国際化推進係係長
戸田佐和 同 専務理事
小瀧雅子 同 常務理事
樋口 博 同 日本語授業部 担当部長
小形真佐子 同 研修事業部 担当部長（書記）

欠席：伊藤寛了 公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部 企画調整課 企画第一係長
清野成美 港区 国際化・文化芸術担当課長
関口明子 公益社団法人 国際日本語普及協会 理事長

4. 討議事項

1) 主催者挨拶

初めに、専務理事戸田より、理事長関口が急な身内の不幸のため帰郷し、運営委員会に出席できなくなったこととお詫びした。

本日の検討事項について説明後、戸田よりご挨拶、今年度の本事業の趣旨説明、並びにこれまでのご協力のお礼を申し上げた。

2) 本年度事業について

- 取組1「難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援事業」（全40回 計80時間）

平成29年5月11日～平成30年3月1日（除：12/28、1/4）

毎週木曜日 18：30～20：30

於：浄土真宗本願寺派梅上山光明寺

*生活日本語勉強会のプログラム参照

○これまでの状況についての報告

- ・今年度は3クラス体制で始まり、現在の参加者は、ゼロ初級1名、初級1名、中級9名、合計11名ほどとなっている。講師は、初級と中級のクラスを、一人ずつメインの講師が担当し、ゼロ初級の1名は補助講師が担当している。初級の2名には、特にマンツーマンの丁寧な指導を行える体制を組んでいる。最近、初級2名の会話レベルが近づき、合

同で行うようになってきた。

- ・現在 27 回が終了。申し込み者数は 20 名いるが、一度も出席がない者、仕事が入ってこられなくなってしまったものもいる。とくにアフリカからの学習者はなかなか定着しない傾向にある。
- ・3 年ほど継続して学習しているものが 3 名いる。ほとんどゼロで始まった日本語も、今は漢字かな交じりの中級教材で問題なく学習しており、日常会話もかなり上達した。
- ・友達を連れてきてくれることにより、学習者も集まり、国籍はミャンマーとベトナムが 6 対 4 ぐらいの割合で、双方仲良く和やかな雰囲気学んでいる。

・中級クラス

レベルは、日本語でコミュニケーションができる程度で、CEFR の A1～A2 程度。

これまでに扱った内容は、社会事情として、最近のニュースから「インスタ映え」「睡眠負債」など様々なトピック、また、地理、歴史、転職・就職のための仕事関連、最近は国と日本の文化・習慣の違いをシリーズとして取り上げている。11 月 16 日先祖供養を扱う回には、光明寺の墓地を見学させていただくことを石上ご住職にご了解いただいた。授業の進め方は、トピックについて話し合ったり、読み物を読んでそれについて会話をしたり、漢字学習も教材の中から適宜取り上げて行っている。最後にその日に学んだこと、理解したことから意見、感想を書く時間となるべく作っている。

・初級クラス

文化庁のカリキュラムに沿った内容で、買い物、病気といった日常生活のトピックから語彙、表現を学び、会話練習をしている。ひらがな、カタカナの文字学習も復習しながら少しずつ定着できるように進めている。

- ・毎回合同で、歌や早口ことば、ことわざを取り上げ、楽しみながら、口回りもよくする活動を行っている。

・戸外学習

7 月 13 日に東京タワーの天の川イルミネーションに行き、展望台まで約 600 段の階段を、景色を楽しみながら上った。

12 月 14 日には東京駅周辺イルミネーションと KITTE（丸の内・日本郵便）に行く予定である。それに関連して、12 月 7 日には欧米由来で日本に定着した行事などで事前学習をする。

・学習発表会

最終日の 3 月 1 日（木）に開催する。21 日に打ち合わせをする。例年、好きなものなど紹介したい自国のものについて、発表している。一人 1 分～10 分ほど。画像や映像を駆使するものもいる。修了書はないが、皆勤賞と精勤賞を渡している。

●取組2「難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者に対する日本語教育への理解を促進するための支援者研修」 （全10回 計30時間）

平成29年12月7日～平成30年2月22日（除：12/28、1/4）

毎週木曜日 17:30～20:30

於：公益社団法人 国際日本語普及協会

＊研修会受講生募集の案内と研修会スケジュール参照

- ・受講者の人数は学習者数と同じ位を考えており、定員 15 名を予定している
- ・難民支援を中心とした研修と位置付けている。難民支援団体やメーリングリスト、ミャンマーのボランティア教室などに募集を知らせて、現在 8 名の応募者がある。アフリカ関係の難民認定前の人に実際に支援を行ったり、引き受けたりしている方など、すでに何らかの形で活動を始めている方も多い。双方向の形で持っていけたらと思っている。港区勤務で、光明寺の日本語教室の話を聞いて応募くださった方もいる。
- ・後半に実習を行う。日本語の教室に、一対一で入り、発表に向けてスピーチの原稿をサポートする。学習者から話す内容を引き出し、文にしていける。実習の回は毎回同じ学習者との組み合わせにすることが望ましい。

取組 3 「日本語学習用教材作成事業」（取組 1 使用教材、40 回分）

- ・中級の教材を文化庁への提出教材としている。A4、3～4 枚の教材を作成。次回の運営委員会で教材を紹介する予定。A4、1 枚ほどの長さの読み物には、漢字にはルビを振るが、基礎的な漢字はルビなし。イラストなどは著作権フリーのものを使用。
- ・提出はしないが、合同用として、AJALT 著作教材「wadaiko」から早口言葉などを取り上げている。また、初級教材は、以前の教材などを活用しながら作成している。

3) 参加者募集について

- ・港区国際交流協会の小門様と港区役所の高木様に参加者募集のご協力をお願いした。港区ではやさしい日本語に力を入れている。実施する側としても支援を体験しておきたい（高木氏）。飛び入り参加を希望（小門氏）。

4) 質疑応答、意見交換

- ・難民認定者の数はどのくらいいるか。
ミャンマーからの 5 名ほどは認定者。他、牧師さんなどの詳しいステータスは分からない。皆自活している。ミャンマーの人は帰国しても生活が問題で、日本に残る選択をする人が多いようだ。
- ・港区は外国人も多く、日本語支援への関心が高まっている。地元地域の方に来ていただく機会が広がっていくことを望む。

5) 次回運営委員会について

3 月に運営委員会を開く。その時に、今年度全体のプログラムの結果をご報告し、本年度の実施内容につきご検証いただく。その後、書類を作成、3 月中旬に文化庁に提出する予定である。時期が近づいたらお知らせをしたい。

以上

平成29年度文化庁地域日本語教育実践プログラム (A)

難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援
および難民への日本語教育への理解促進事業

第3回運営委員会

1. 開催日時：平成30年3月13日（木）19：00-21：30
2. 開催場所：公益社団法人 国際日本語普及協会（AJALT）
3. 出席者：伊藤寛了 公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部 企画調整課 企画第一係長
（敬称略）石上和敬 浄土真宗本願寺派梅上山光明寺 住職、武蔵野大学 教養教育部 教授
岩瀬香奈子 株式会社アルーシャ 代表取締役
高木隆子 港区 産業・地域振興支援部 地域振興課 国際化推進係係長
関口明子 公益社団法人 国際日本語普及協会 理事長
戸田佐和 同 専務理事
小瀧雅子 同 常務理事
小形真佐子 同 研修事業部 担当部長
樋口 博 同 日本語授業部 担当部長
ご欠席：小門 謙 一般財団法人 港区国際交流協会 事務局長・常務理事
清野成美 港区 国際化・文化芸術担当課長

4. 討議事項

1) 「日本語学習支援事業」(取組1)実施報告

- ・開催日時：5月11日～3月1日（木曜日 18：30-20：30） 全40回
- ・開催場所：浄土真宗本願寺派梅上山光明寺 新館
- ・参加者：17名（ミャンマー9名、ベトナム5名、中国・パレスチナ・コンゴ各1名）
- ・実施内容：別紙
別紙（40回分実施内容スケジュール表）を参照しながら、学習内容の概略を説明した。

○学習者について

- ・基本的な学習者は難民及びその家族である。
- ・延べ17名、期間を通して一桁の人数ではあるが、安定的な人数が参加している。
（最少3名～最大9名）。
- ・一度参加しても家から遠くて続かない人、仕事や家庭の事情で来られなくなる人など途中で
入れ替わりもあったが、最後まで継続して参加した人も6名いた。
- ・最後に精勤賞を3名に渡した。
- ・2014年から継続しているミャンマー女性が3名いた。

○クラス編成

- ・初めは3クラスに分かれ、講師が一名ずつ担当した。
 - ①話せる人のための中級クラス ②少し話せる人のための初級クラス、
 - ③全く話せない人のための初心者クラス。
- ・後半は、初級と初心者クラスは一つになり、2クラス体制となった。
- ・毎回、カレンダーや季節の話、歌やプロソディーなど、合同で楽しむ時間を設けた。
- ・分かれて学習することによって、学習効果は上がったと思われる。

○学習内容

- ・テーマは毎月一回の講師連絡会で、討議して決定した。
- ・初級は、自己紹介、一日の生活、買い物、交通経路、災害、病気といった文化庁生活日本語に沿ったようなテーマで、生活の中の日本語習得を目指した。
- ・中級は、生活日本語から一歩踏み込んで、社会事情を扱うなど、ニュースなどの話題でも話せるように学習した。また、日本の歴史、地理、文化習慣の違いをテーマに知識も深めた。インスタ映えなど最近の話題でも、ベトナムやミャンマーの若い人などは興味を持って取り組んだ。
- ・戸外学習は、2回実施した。7月に東京タワーを訪れた時は外階段を利用して上まで上った。12月には、新しい文化的行事として、イルミネーション見学を行った。帰りに東京駅でラーメンを皆で食べたり、戸外学習は日頃外出の楽しみの少ない学習者にとっては、楽しい行事となっている。

○質疑応答

- ・特に反応がよかったテーマは何か
知的好奇心は高く、ニュースに関心があった。日頃耳にする事柄を扱うことで、より深い事情を知ることができ、満足に繋がっていた。
日本の皇室、歴史、地理も、日本語力に関係なく、興味ある話題だった。
- ・教材はどうしているか
学習教材の予算が下りている。著作権に触れないイラストなどを使用している。
- ・4年継続している学習者は上手になったか
日本語力の向上はもとより、学習者にとって教室は一つの居場所になっており、友達や先生と合えること、話すことが楽しみになっている。自然なコミュニケーションも向上している。
- ・難民は英語が分からない人もいるのではないか
今の難民の学習者は大学を出ている人も多い。
ただ、英語を知っていることで却って学習の妨げになることもある。

・最後の学習発表会に参加した感想は

歌会始めのお題を取り上げる人がいて、文化的関心の高さに驚いた。抑揚をつけて自作の歌も披露した。日常生活をしながら勉強を続けて、発表会では、学習者が自己表現をしている。プロの教師が目的をもって引っ張り上げた成果だと感じた。

○アンケート結果報告

アンケートで問う以下の項目には例年高い評価をもらっている。

- 1) プログラムで日本語が上手になったか
- 2) 日本語ができるようになったか
- 3) このプログラムの内容に満足しているか
- 4) もっと日本語を勉強したいと思うか

2) 「支援者研修」(取組2) 実施報告

- ・開催日時：12月7日～2月22日(木曜日 17:30-20:30) 全10回
 - ・参加者：13名
 - ・実施内容：別紙
- 別紙(10回分支援者研修スケジュール表)を参照しながら、学習内容の概略を説明した。

○講座の概要

・基礎研修7回について

初回のテーマは「日本語支援の第1歩—学習者を知ろう 日本に暮らす難民」ということで、難民についての基礎知識を学ぶと同時に、難民ラムさんを講師に迎え、実際にその体験談を聞き、質問にお答えした。ラムさんは、ミャンマー難民認定者で、RHQ 修了生、現在はRHQ で仕事をしている。

残り基礎研修6回では、日本語支援をするにあたって最低必要な知識と思われる「日本語の音声、文字表記、基本的な文法知識、わかりやすい日本語の話し方、行動体験型の教室活動：標準的カリキュラム案について」を学習した。

・実践研修3回について

行動体験型の教室活動：「標準的カリキュラム案」の実践として「SHOW&TELL」の手法、また、学習発表会に向けて学習者が行う「スピーチ」の内容を引き出し、原稿作成、発表練習までの一連の学習過程に寄り添い、実際に支援体験活動を行った。

○参加者について

難民支援団体に所属している人、年少者の学習支援を10年続けている人、支援は初めてでも関心の高い人、近くに職場のある若い人、難民雇用して社会貢献している企業からの人など、年代も、属性も幅広い方が参加した。すそ野が広がっていることを実感している。

○参加の感想 (高木隆子さん)

日本人だけど日本をよく知らないことを実感した。教える立場になった時、新しい発見があった。こういう言い回しが分からない、こういうところが分かりづらい、ということに気が付いた。やさしい日本語に直すことも、難しい。これぐらいでよいのか、と思っても伝わらない。ストレートに言うぐらいが伝わるのかもしれない。

今後やさしい日本語を推奨していく動きがある。研修に参加すると参考になる。

3)「日本語教育のための学習教材作成事業」(取組3) 実施報告

教材は毎回提出用を作成している。

4) 本年度事業の評価

○アンケート結果：回収 13 名中 6 名

- ・今回参加して、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと思うか。

回答：深まったと思う 6 人/6 人中

- ・今回参加して、「生活者としての外国人」のための日本語教育に関わってみたいと思ったか。

回答：関わってみたいと思う 2 人/6 人中

できれば関わってみたいと思う 4 人/6 人中

「日本語学習支援事業」(取組1)、「支援者研修」(取組2)ともに、アンケート結果も踏まえて良い評価を頂いた。

○アンケートに寄せられたコメントより

- ・一から学ぶ状況だったので大変勉強になった。最初は具体的な感覚がつかめなかったが、回を重ねるうちに、「生活者としての外国人」に対する日本語教育が少しイメージできるようになったと思う。まだまだスタート地点だが、少しずつでも先に進みたい。
- ・知識や経験がない状態で参加し、当初は気おくれしたが、毎回の講義が非常に丁寧で理解しやすく、楽しみながら学ぶことができた。
- ・何気なく話している言葉も一つ一つ分解していくと、それぞれに意味を持ち、組合せ次第で大きく異なってくるので、それをいかに分かりやすく教えるか、工夫していくことが大事だと実感した。
- ・「生活者としての外国人」に対する日本語支援に主眼を置いていることに、回を追うごとに感心が高まった。
- ・他の参加者との情報交換も参考になった。
- ・難民支援、年少者学習支援など様々な方と共に学べてよかった。
- ・毎回経験豊かな先生方から「生活者としての外国人」にとって必要な日本語の教授法を基本的な文法知識と共に教わり、勉強になった。
- ・日本語を全く習った経験のない外国人にどう教えるか、という点が興味深く、また大変参考になった。

- ・教室活動では支援のプランを立てる際に支援者の到達度、何が必要なのかを見極めるむずかしさを改めて感じた。
- ・発表会では、講師の方々の指導や学習者の熱意が実って、本番でしっかり仕上がっていたことに感動した。
- ・この経験を生かして大人子ども問わず、多様な外国人の日本語支援に携わりたいと思う。
- ・「やさしい日本語」について、もっと学びたかった。
- ・初めて難民の方のお話や、学習発表会でのスピーチを聞くことができて勉強になった。
- ・実際の教室で勉強している学習者の皆さんとの時間が持てて良かった。非常に貴重な経験だった。想像以上に日本語が上手で一生懸命で自分自身刺激を受けた。
- ・日本語支援者の育成はもちろん重要だが、その両輪として、一歩手前で生活者としての外国人に対する理解を深めるような研修(対象は経験、知識を有しない)の実施も有効だと思う。支援者の質向上に加えて、すそ野の拡大が必要かと思う。その点では、一般市民が、在住外国人がどんな時に困るのか、どういう対応がベターかに理解を深めることが大切かと思う。
- ・支援は関わってみたいが具体的な活動場所を知らない、という層は大きいと思う。支援団体のデータバンクやマッチングイベントの開催の検討なども必要だと感じた。

5) 来年度事業について

- ・平成30年度文化庁地域日本語教育実践プログラム(A)(3年目)
日本語教室 40回 支援者研修 10回
日程:「日本語学習支援事業」平成30年5月10日~平成31年2月28日
「支援者研修」 平成30年12月6日~平成31年2月21日
採択内定の通知を頂いた。
- ・来年度予算は224万(15万削られる)教材の作成費がないと考える。
- ・A)が終了後、日本語教育実践プログラム(B)を実施できる。
大学関係が申請多い
- ・引き続きの運営委員会の皆さまのご支援・ご協力をお願いした。

以上

「生活日本語」勉強会のお知らせ



この講座は、主に難民やその家族の方を対象とした定住者のための勉強会です。
日本の社会で生活していくために必要な日本語と一緒に勉強しませんか。学校などに通って
日本語を勉強するチャンスのない方で、18才以上の方ならだれでも参加できます。

【日時】 2017年5月11日～2018年3月1日、毎週木曜日、18:30～20:30

全40日80時間（12月29日、1月4日はお休み）

＊できるだけすべての回にご参加ください。

【場所】 光明寺（下記の会場地図参照）

東京都港区虎ノ門3-25-1

【参加費】 無料（会場までの交通費は、ご自身でご負担ください）

【申込み】 下記の申込みフォームにご記入の上、FAX でお申込みください。

FAX: 03-3459-9660（2017年5月4日まで、先着20名様まで）

【内容】 生活に必要な日本語（例：交通、買い物、仕事の日本語）

コミュニケーションに必要な日本語（例：身近な人、地域の人と話す）

自己表現のための日本語（例：街へでかけよう、自己紹介）など

【申込みフォーム】

【会場】

名前 _____ 年齢 _____ 才

東京メトロ 日比谷線 神谷町駅(3番出口)から1分

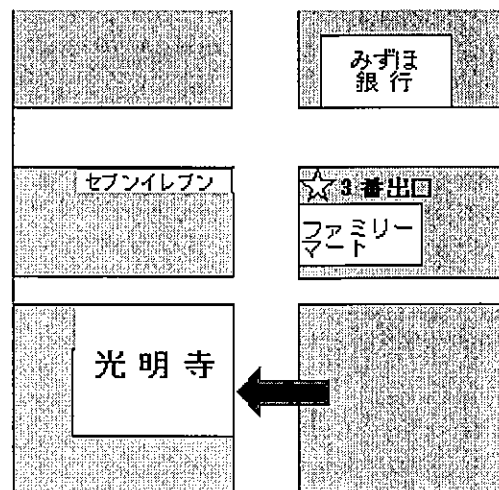
名前(ローマ字) _____

国籍 _____ 性別 _____ 男 / 女

住所 _____

電話 _____

メールアドレス _____



Learn "Everyday Japanese"

**Free study sessions for residents focusing on refugees
and their families**



Would you like to get together and study Japanese that you can use in your day-to-day life? Attend our study sessions, which are offered for free! If you are 18 or older and cannot go to school, this is the chance for you to learn.

【Dates】 May 11, 2017 to March 1, 2018 (Thursdays from 18:30 to 20:30) for a total of 80 hours over 40 days (no sessions on Dec.29, Jan 4)

*Please try to attend all sessions.

【Location】 Komyo-ji Temple (see the map below)

Toranomon 3-25-1, Minato-ku, Tokyo

【Fees】 FREE! (Students are only responsible for their own transportation costs)

【How to sign up】 Fill in the form below and FAX to :03-3459-9660

(Up to 20 students on a first-come basis. Sign-up deadline is May4.)

【What You Will Learn】 Everyday Japanese that you can use immediately in your day-to-day life (e.g. transportation, shopping, work, etc.) for communicating with people around you. You will also learn how to talk about yourself (where you are from, what you like to do, etc.) in Japanese.

【Application form】

Name _____ Age _____

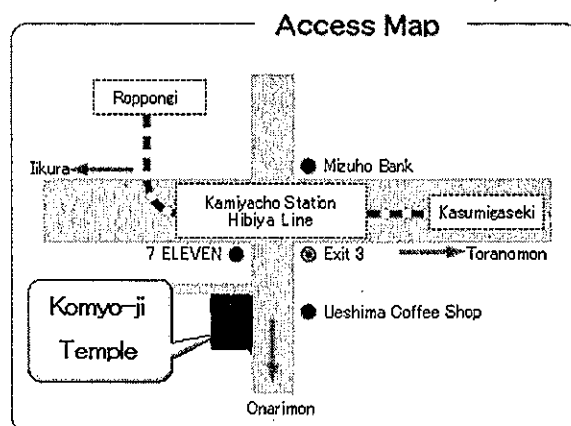
Name(alphabet) _____

Nationality _____ Sex _____ Male/Female

Address _____

Phone _____

email _____



1 minute walk from the Kamiya-cho Station (Exit 3)
on the Tokyo Metro Hibiya Line

「နေထိုင်မှုအတွက်လိုအပ်သောဂျပန်စာ」 သင်တန်းအကြောင်းကြားစာ

ဂျပန်နိုင်ငံ၏လူ့ဘောင်အဖွဲ့ အစည်းတွင်နေထိုင်ရန်အတွက်လိုအပ်သောဂျပန်ဘာသာစကားကိုအတူတူမသင်ချင်ဘူးလား။ဂျပန်ဘာသာစကားသင်တန်းကျောင်းတွင်တက်ရောက်သင်ကြားရန်အခွင့်အရေးမရှိသူ၊အသက် ၁၈ နှစ်နှင့်အထက်မည်သူမဆိုတက်ရောက်နိုင်သည်။

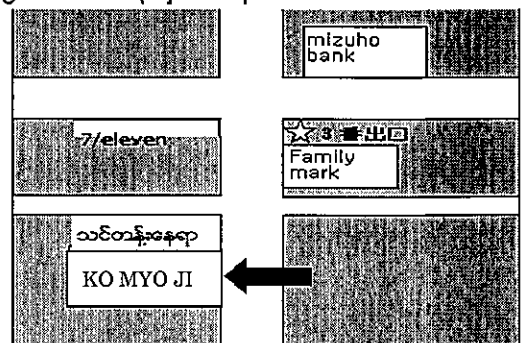
သင်တန်းကာလ ၂၀၁၇ ခုနှစ် ၅ လ ၁၁ ရက် မှ ၂၀၁၈ ခုနှစ် ၃ လ ၁ ရက်
 သင်တန်းချိန် အပတ်စဉ် ကြာသပတေးနေ့ ၁၈ နာရီ ၃၀ မိနစ် မှ ၂၀ နာရီ ၃၀ မိနစ်
 စုစုပေါင်း ၄၀ရက် နှင့် အချိန်ပေါင်း ၈၀ နာရီ
 (၁၂ လ ၂၉ ရက် ၊ ၁ လ ၄ ရက် ပိတ်ပါမည်)
 တက်နိုင်သလောက်သင်တန်းချိန်အားလုံးတက်ရောက်သင်ကြားရန်
 နေရာ KOU MYO JI (အောက်တွင်မြေပုံဖော်ပြထားသည်)
 TOKYO MINATOKU TORANOMON 3-25-1
 သင်တန်းကြေး အခမဲ့ (လမ်းစရိတ်တာဝန်မယူပါ)
 လျှောက်ထားရန် အောက်တွင်ပါရှိသောလျှောက်လွှာဖြည့်ပြီးဖက်စ်ဖြင့်ပို့ ပေးရန်
 ဖက်စ်နံပါတ် ၀၃-၃၄၅၉-၉၆၆၀ (၂၀၁၇ ခုနှစ် ၅ လ ၄ ရက် နောက်ဆုံး၊ ၂၀ ဦးသာလက်ခံမည်)
 အကြောင်းအရာ နေထိုင်ရန်အတွက်လိုအပ်သောဂျပန်စာ
 (ဥပမာ လမ်းပန်းဆက်သွယ်ရေး၊ဈေးဝယ်၊လုပ်ငန်းခွင်သုံးဂျပန်စာ)
 လူမှုဆက်ဆံရေးတွင်လိုအပ်သောဂျပန်စကား
 (ဥပမာ အနီးအနားရှိလူ၊အိမ်နီးနားခြင်းတို့ နှင့်စကားပြောခြင်း)
 မိမိခံစားချက်ကိုထင်မြင်ချက်ပြောဆိုရာတွင်အသုံးရန်လိုအပ်သောဂျပန်စာ

【လျှောက်လွှာပုံစံ】

အမည် _____
 အသက် _____ နှစ်
 နိုင်ငံသား _____
 လိင်အမျိုးအစား အမျိုးသား/အမျိုးသမီး
 နေရပ်လိပ်စာ _____
 ဖုန်းနံပါတ် _____
 မေးလ်လိပ်စာ _____

【နေရာ】

Tokyo Metro Hibiya Line Kamiyacho ဘူတာ
 ထွက်ပေါက် ၃ မှ ၁ မိနစ်



平成 29 年度文化庁委嘱事業「生活日本語」勉強会
がくしゅうしゃ
学習者のみなさまへのアンケート

じかい せいかつにほんご べんきょうかい
次回の「生活日本語」勉強会をよりよいものにするために、アンケートにご協力ください。

いただいた回答は、上記の目的以外のために使うことはありません。

なまえ
お名前 _____

おとこ おんな
男 ・ 女

ねんれい さい
年齢 _____ 歳

れんらくさき
ご連絡先 _____

E メールアドレス／電話 _____

1. この教室で勉強して、あなたの日本語は前より上手になったと思いますか。1つ選んでチェック(☑)してください。

☐ じょうず 上手になったと思う ☐ まあまあ じょうず 上手になったと思う ☐ か 変わらない ☐ じょうず 上手になっていないと思う

2. この教室で勉強する前とくらべて、日本での生活ができるようになったと思いますか。1つチェック(☑)してください。

☐ できるようになったと思う ☐ すこ 少しでもできるようになったと思う ☐ か 変わらない ☐ できるようになっていない

3. この教室の勉強会の内容に満足していますか。1つチェック(☑)してください。

☐ まんぞく 満足している ☐ まあまあ まんぞく 満足している ☐ あまり まんぞく 満足していない ☐ まんぞく 満足していない

4. もっと日本語を勉強したいと思いますか。1つチェック(☑)してください。

☐ おも 思う ☐ おも 思わない

5. この教室の勉強会に関してコメントを記入してください。(勉強になったこと、次回勉強したいこと)。

ご協力ありがとうございました。

地域在住外国人に対する日本語支援 研修会

受講生募集!

【日 時】 平成29年 12月7、14、21日、平成30年1月 11、18、25日、2月1、8、15、22日

毎週木曜日、17:30~20:30 (1回3時間 全10回30時間)

【場 所】 公益社団法人国際日本語普及協会 AJALT (下記地図参照)

【参加費】 無料 定員: 15名 締切: 11月末日

【申し込み方法】 下記の申込みフォームにご記入の上、FAXでお申込みください。

又は、下記 URL『お問い合わせ』フォームに、件名を「日本語支援研修会」として、
他の必要事項をご記入の上、お申込みください。

<https://www.ajalt.org/contact/> 担当: 小形 樋口



どなたでも
参加できます。

【講師】 公益社団法人 国際日本語普及協会(AJALT)所属教師

地域に住む生活者としての外国人への日本語支援に興味のある方、日本語教育について考えてみたい方、生活やコミュニケーションに必要な日本語支援の勉強会に参加しませんか。日本語支援に全く関わったことがなくても大丈夫です。支援の基礎から学びます。実践研修では、実際に外国の方の支援にあたりながら、現場を体験します。一緒にコミュニケーションの輪を広げませんか。

【内容】

■基礎研修 第1回~7回

第1回●学習者を知ろうー日本に暮らす難民ー難民の方の話を聞きながら、日本に暮らす難民について学ぶ回を予定しています。第2回~第5回●日本語ってどんなことば?ー日本語の音、文字、形(文法)ーなど、日本語支援に役立つ基本的な知識を学びます。第6回●わかりやすく伝えようー相手に分かりやすい「やさしい日本語」を話すコツを学びます。第7回●生活に必要な日本語を学ぼうー生活日本語支援を通じた「体験行動型」の教室活動を見学します。

■実践研修・実習 第8回~10回

●実際に体験してみようー日本語教室に支援者として参加し、体験しながら支援の方法を学びます。

【申込みフォーム】

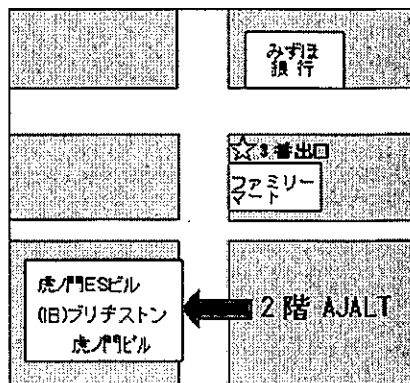
お名前 _____
☐ 20~30代 ☐ 40~50代 ☐ 60代~
 ご住所 _____
 お電話番号 _____
 メールアドレス _____
 ご所属 _____ 経験年数 _____

*ご記入いただいた情報は、無断で本講座以外の目的に使用することはありません。

【会場】

東京メトロ日比谷線 神谷町駅 (3番出口)徒歩1分)

東京都港区虎ノ門 3-25-2



「日本語支援研修会」参加者アンケート

「地域在住外国人に対する日本語支援 研修会」にご参加いただきありがとうございました。今後同様の講座を開催する際の参考にさせていただくために、アンケートにご協力ください。いただいた回答は、上記の目的以外のために使うことはありません。

団体名 _____ お名前 _____

ご連絡先 _____

E メールアドレス／電話 _____

1. 今回参加して、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと思いますか。
当てはまる□にチェック1つ(☑)をお入れください。

☐ 深まったと思う ☐ まあまあ深まったと思う ☐ 深まらなかった ☐ 分からない

2. 今回参加して、「生活者としての外国人」のための日本語教育に関わってみたいと思いましたか。

☐ 関わってみたいと思う ☐ できれば関わってみたいと思う ☐ 関わってみたいと思わない ☐ 分からない

(2. で「(できれば)関わってみたい」とお答えの方のみお答えください)

3. 今後どちらの教室で活動なさる予定、または活動なさりたいですか。

5. 今回の講座に関するコメントをご記入ください。

ご協力ありがとうございました。